

【様式1-1】

みやき町 個別施設計画（橋梁）

令和2年3月

みやき町

1. 個別施設計画（橋梁）の目的

1) 背景

本町の管理橋梁（橋長2m以上）は、令和2年3月31日現在で240橋である。

このうち、架設年次が分かっている橋梁は131橋で、建設後50年を経過している橋梁は約13%

（17橋）を占めている。20年後（令和21年度）には約69%（91橋）、30年後（令和31年度）には約90%（118橋）となり、増加していく。

このように今後急速に高齢化が進む橋梁に対して、従来事後保全型の維持管理（損傷がある程度進行して対策する）では維持管理コストが膨大となり、限られた予算制約の中で、安全性や信頼性を確保することが困難となる。

令和元年度(2019)

17橋
(13%)



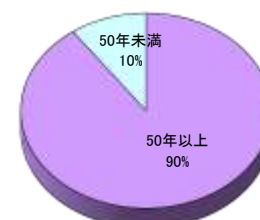
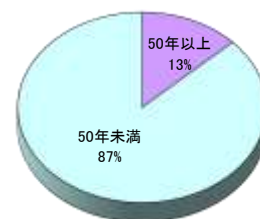
令和21年度(2039)

91橋
(69%)



令和31年(2049)

118橋
(90%)



2) 目的

今後、橋梁の急速な高齢化に対応するため、従来事後保全型の維持管理による補修や架替えから、損傷が少ないうちに対策する予防的な補修や計画に基づいた架替えに政策を転換し、補修等の費用縮減および架替えに係る費用の平準化を図り、地域道路網の安全性や信頼性を確保することを目的とする。

2. 個別施設計画（橋梁）の対象橋梁

(橋)

	1級町道	2級町道	その他町道	合計
全管理橋梁数	45	40	155	240
うち計画の対象橋梁数	45	40	155	240
橋長15m以上の橋梁数	9	10	37	56
橋長15m未満の橋梁数	36	30	118	184

個別施設計画（橋梁）の対象：

令和元年度、本町の個別施設計画（橋梁）の対象は、管理橋梁（橋長2m以上）の全橋を対象とする。なお、個別施設計画（橋梁）は、橋長15m以上と橋長15m未満に区分して策定する。

3. 健全性の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全性の把握の基本的な方針

橋を効率的に維持管理するには、橋に発生している損傷を早期に把握するための点検を行うことが重要である。

そのため、本町では、点検方法を各段階に応じて次のように区分する。

種類	目的	頻度
日常点検	道路パトロールでの状況把握	随時
定期点検	橋の状況把握	5年に1回
詳細調査	損傷の詳細点検	必要に応じて
緊急点検	異常な損傷の把握	災害時など 必要に応じて

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋の長寿命化には、日常点検（道路パトロール）および定期点検で発見される損傷の対策が大きく影響を及ぼすと考えられる。

そのため、本町では、比較的容易に対応が可能なものは、日常の維持作業で対策するものとする。なお、定期点検で損傷が著しい橋については、日常点検にフィードバックし、点検内容を強化する。

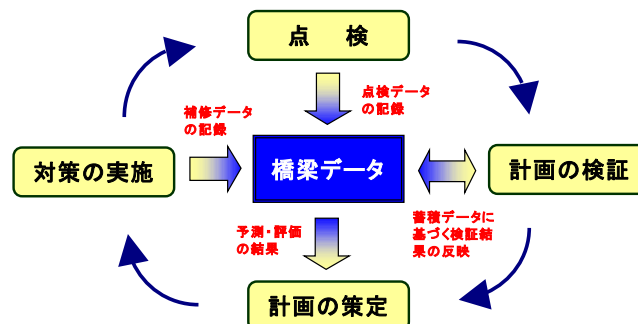
4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

本町では、個別施設計画（橋梁）による効果を継続的に発揮するため、以下の方針を設定する。

- (1) 点検の実施
- (2) 橋梁維持管理サイクルの運用

橋梁維持管理サイクルを運用することにより、定期点検や日常的な点検で橋の健全性を把握し、予防的な補修や計画に基づいた架替えにより、維持管理費の軽減を目指す。

また、実施した補修の効果や点検結果を踏まえ、個別施設計画（橋梁）の検証を行い、効果的な計画となるように適宜見直しを行う。

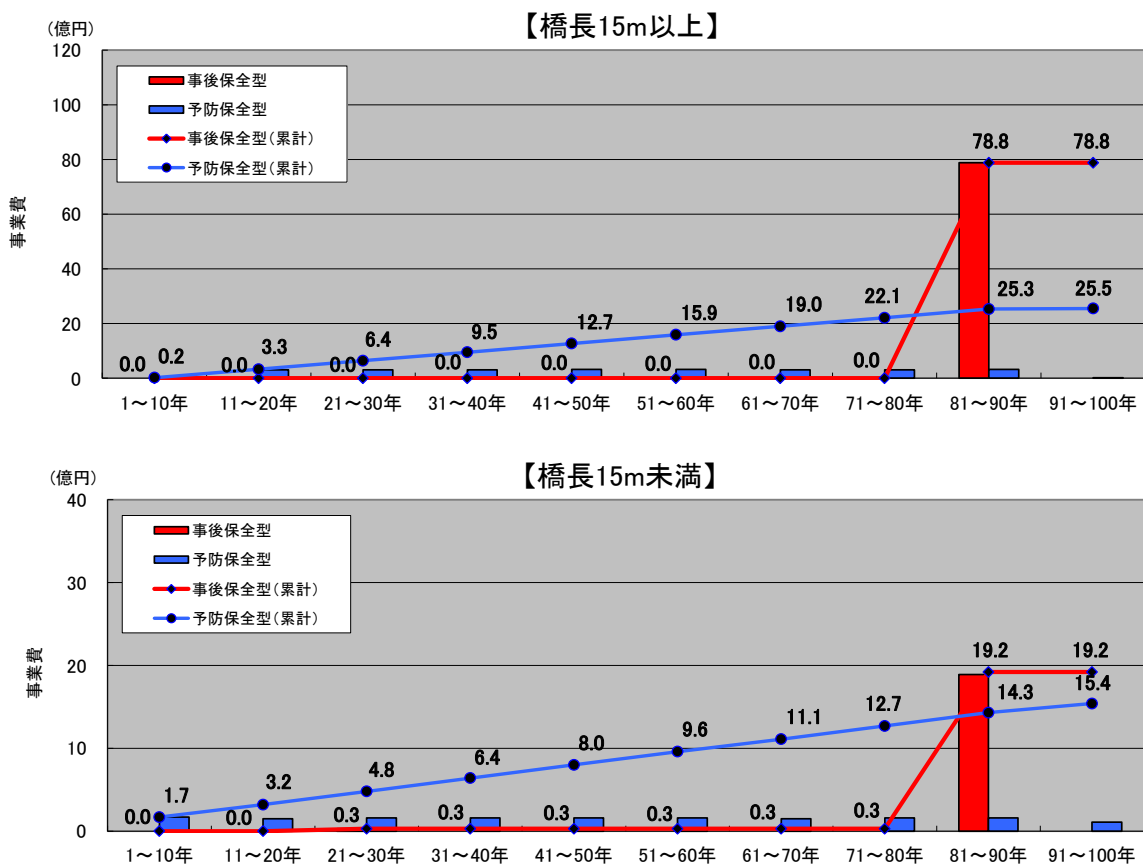


5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

様式1-2による

6. 個別施設計画（橋梁）による効果

個別施設計画（橋梁）を策定する橋梁について、今後100年間の事業費を比較すると、橋長15m以上では従来の事後保全型が78.8億円に対し、個別施設計画（橋梁）の実施による予防保全型が25.5億円となり、コスト削減効果は53.3億円となる。橋長15m未満では従来の事後保全型が19.2億円に対し、個別施設計画（橋梁）の実施による予防保全型が15.4億円となり、コスト削減効果は3.8億円となる。
また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保される。



7. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

みやき町 事業部 建設課 TEL : 0942-96-5531 (代表)

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

佐賀大学 理工学部 理工学科 教授 伊藤 幸広

